

# 第9回 矢作川流域治水協議会の開催

近年の激甚化・頻発化する水害に備え、矢作川流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を計画的に推進することを目的として、「矢作川流域治水協議会」を適宜開催しています。

今回「第9回 矢作川流域治水協議会」を開催し、令和7年度の関係者の取り組み内容を相互に確認すると共に、更なる「流域治水」の加速化・深化に向けて協議・情報共有を行いました。

## 【開催概要】

日時：令和8年3月18日（水）  
10：00 - 12：00  
会場：岡崎商工会議所・WEB

## 【主な議事】

- ・規約の改定
- ・矢作川水系流域治水プロジェクト2.0の取り組み状況
- ・矢作川水系内外水統合型水害リスクマップの公表へ向けて
- ・更なる流域治水の加速化・深化に向けて
- ・流域治水を含む新たな枠組み 流域総合水管理
- ・その他



岡崎市 土木建設部長

碧南市

碧南市



豊田市 建設部 河川課長

安城市

安城市



豊田市 上下水道局企画課 主幹

西尾市

西尾市

幸田町

幸田町

恵那市建設課

恵那市

平谷村

平谷村

根羽村

根羽村

長野県河川課

長野県 建設部

岐阜県河川課

岐阜県 県土整備部

岐阜県 林政部

岐阜県 林政部

愛知県河川課

愛知県 建設局

愛知県農林基盤局

愛知県 農林基盤局

中部電力越戸水力制御所

中部電力 越戸水力制御所

愛知森林管理事務所

林野庁 愛知森林管理事務所



矢作ダム管理所長



豊橋河川事務所長

## 【議事概要】

- ・組織改正に伴う役職の変更について規約改定を提案し、承認された。
- ・矢作川水系流域治水プロジェクト2.0について、各構成員における取り組み状況を共有するとともに、国・県・市町村が連携した取り組みの事例が示された。
- ・流域治水の推進を目的に、水災害リスクを踏まえた防災まちづくり等への活用が期待される内外水統合型水害リスクマップを令和7年度に公表する。
- ・更なる流域治水の加速化・深化に向けて、自分事化に資する令和7年度の水害状況や国土交通省における流域治水のソフト施策等について共有した。
- ・流域総合水管理の推進に向けて、令和7年度の渇水状況や流域総合水管理の目指す方向性、取組事例等について共有した。

# 第9回 矢作川流域治水協議会の開催

## 【主な発言】

- ・岡崎市：平成20年8月末豪雨により市内で甚大な浸水被害が発生したことを踏まえ、市中心部の低地部を対象に下水道整備を進めている。現在、浸水地区から新八帖雨水ポンプ場に直結する八帖北幹線及び愛宕幹線の整備を進め、新八帖雨水ポンプ場のポンプ増設により排水能力の増強を図っている。併せて、雨水貯留浸透施設設置補助制度を活用し、ハード対策とソフト対策を組み合わせた総合的な雨水対策により被害軽減に努めている。
- ・豊田市：準用河川長田川流域は、平成12年東海豪雨等により浸水被害が発生している一方、中心市街地に近く将来的な市街化を見据えた土地利用が想定されることから、治水対策が重要な区域である。現在、一級河川安永川の改修完了を受け、都市計画道路高橋細谷線の整備と同調した河川改修を進めるとともに、洪水調節池の整備や多自然川づくりにより、流域全体の状況を踏まえた治水安全度の向上を図っていく。
- ・安城市：市民・事業者・行政が一体となった流域治水対策の一環として、平成22年度からこれまでに約135haの農地で水田貯留の取り組みを行っている。市内イベントでのPRや水田貯留米を活用した学校給食の提供などを通じ、市民への理解促進と情報発信を進めている。
- ・西尾市：沿岸部や海拔ゼロメートル地帯を有する特性を踏まえ、洪水・内水・津波・高潮等の各種ハザードマップを作成・配布するとともに、多言語版ややさしい日本語による周知を進めている。併せて、雨水タンク設置等への補助や住宅浸水対策補助制度の実施、出前講座や防災アプリを通じた情報発信により、地域に根差した市民の事前防災意識の向上と被害軽減に向けた取り組みの充実を図っている。
- ・長野県：近年の水害を踏まえ、流域治水の取り組みを「流す・留める・備える」の3つの柱で推進し、特に避難体制づくりを重視した防災教育に取り組んでいる。小中学生向けの模型や動画を活用した普及啓発、赤牛先生による防災講座、地区防災マップ作成支援等を進めるとともに、信州砂防情報マップの公開により、住民の行動につながる防災情報の見える化と迅速な情報提供を図り、防災力の向上に取り組んでいる。
- ・岐阜県：国の流域治水施策集を参考に県独自の施策を加え、防災リーダーの育成を柱とした流域治水の取り組みを進めている。小中学校の総合学習や体験学習において、川の危険性や伝統的防災施設の紹介、水生生物の採取や水質調査等を実施し、次世代への継承を意識した流域治水の普及と防災・減災意識の向上を図り継続的な人材育成を行っている。
- ・愛知県：住民が水害時に適切な行動を取れるよう、平成23年度から県独自の「みずから守るプログラム」を推進している。町内会や自主防災会等による手づくりハザードマップの作成や大雨行動訓練を支援するとともに、動画作成や説明会の開催を通じて、地域の実情に応じた地域主体の防災行動の促進を図ることで取り組みの定着を進めている。
- ・愛知県：水循環をキーワードに、流域の関係者が連携してカーボンニュートラルの実現を目指す「矢作川・豊川CNプロジェクト」を令和3年度から推進している。再生可能エネルギー創出やエネルギー省力化、森林保全、新技術導入等の取組を進めるとともに、ダム運用高度化や遊水地上部空間を活用した太陽光発電、シンポジウム開催等を通じて、流域一体の取組を展開している。
- ・矢作ダム管理所：矢作川・豊川CNプロジェクトと連携し、矢作ダムにおいて水位運用高度化操作の試行に取り組んでいる。令和7年7月の出水時には、気象予測を活用して洪水調節容量を有効活用し、水力発電を実施することで既存ダムの有効活用を図っている。
- ・豊田市：水道DXとして人工衛星とAIを活用した漏水エリア特定診断及び漏水リスク評価を導入し、漏水調査の効率化と予防保全を進めている。調査対象の大幅な絞込みにより、漏水の早期発見や中山間地域における緊急漏水調査の効率化に活用している。